有無を観察した。実験成績は Sulfadiazine では 0.5mg ~1.0 mg, Daraprim は 0.025 mg 投与のマウスは対照マウス及び他の薬剤投与マウスに比して生存期間が延長しており、この両者の併用投与例では Sulfadiazine 1.0 mg+Daraprim 0.025 mg 投与のものが比較的感染マウスの生存を延長している。(大阪市大・医動物)

各種液体培地に於ける *Toxoplasma gondii* の生存期間に就いて：城野健次郎・佐野竜蔵・戸田尚武・山田源二：Johno, K., Sano, R., Toda, N. & Yamada, G.: The survival of *Toxoplasma gondii* in various suspending media

供試 *Toxoplasma* は *Toxoplasma gondii* (RH 株) のマウス腹腔内累代接種のものをを用いた。*Toxoplasma* の数計算にはトーマス・ツァイス血球算定期を用いた。溶体培地として、生理的食塩水、ペプトン水、ブイヨン、タイロッド、10%血清生理的食塩水、10%血清ブイヨン及び Kirchner の7種を選び pH を 7.4 に調製し、各々7本の試験管に 5 cc ずつ分注しマウス腹腔洗滌液を液体培地 1 cc 中に遊離 *Toxoplasma* を 4000 匹の割合に浮遊せしめ 5°C の氷室中に保存し、生理的食塩水は 1, 3, 5, 7, 15, 24 時間毎に他の液体培地は 10, 24 時間, 3, 5, 7, 10, 15 日毎にその 0.25 cc を供試マウスの腹腔内に接種した。マウスの斃死後直ちに剖検、検鏡し *Toxoplasma* の存在を調べ保存可能期間を検討しその結果生理的食塩水中では 10~15 時間迄漸次減少する感染能を有するが、24 時間以上では感染能は消失した。Kirchner を除く他の液体培地は生理的食塩水よりも長期間保存が可能であり、10 日間感染能力を有していた。Kirchner はこの内でも最も長期保存が可能であり 15 日後に於ても尚感染能力を有し接種マウスの斃死腹腔液中に多数の *Toxoplasma* が検鏡されこの保存 *Toxoplasma* の毒力は累代接種株と同様の毒力を有していた。

(大阪市大・医動物)

紙 上 発 表

1957 年名古屋市に於ける蚊族の季節的消長：成田陽

Narita, Y.: Seasonal occurrence of mosquito at Nagoya in 1957

昨年に引き続き蚊族の季節的消長を調査した。(本誌 Vol. 8, No. 2 参照) 場所、方法は昨年同様である。馬小舎に於て午後 8 時より 30 分間吸虫管法で壁面に静止している蚊を採集した。1957 年 6 月 4 日より 10 月 7 日まで 16 回の採集成績は次のようである。採集総数 1130 匹でその内訳はコガタアカイエカが圧倒的に多く 612 匹で 54.2% で首位、次はシナハマダラカの 309 匹で 27.4%、アカイエカは 209 匹で 18.5% である。昨年の 2926 匹に比し本年は半減している。コガタアカイエカの消長は次のようである。6 月 12 日未見, 19 日初見, 過去の調査と比較すると 26 年度は 5 月 28 日, 27 年度は 5 月 31 日, 31 年度は 5 月 29 日で本年は過去の何れの年よりも遅れている。本年度の最高の山は 7 月 11 日で昨年の 7 月 18 日に比して 1 週間早く、26 年度の 8 月 10 日, 27 年度の 8 月 8 日に比較し次第に早くなっている。9 月 30 日が終見である。26 年度は 10 月 2 日, 27 年度は 9 月 18 日, 31 年度は 9 月 28 日である。シナハマダラカの初見は 6 月 12 日でコガタアカイエカより出現が早かつた。27 年度は 5 月 31 日, 31 年度は 6 月 4 日で本年は何れの年よりも遅れている。本年度の最高の山は 7 月 28 日である。例年 7 月下旬で同一時期である。最終見は 9 月 12 日である。過去に於ては 26 年度は 9 月 27 日, 27 年度は 9 月 18 日, 31 年度は 10 月 19 日であつた。アカイエカは各期でも温暖な日には活動し初見日の決定は困難である。6 月 4 日の 1 匹採集。最高の山は 7 月 18 日で 26 年度は 7 月 23 日, 27 年度は 6 月 30 日である。本市の本年度日本脳炎患者発生数は 49 名で、7 月 2 日初発、7 月中に 5 名, 8 月上旬に 10 名, 中旬に 25 名で最も多く、下旬に 15 名, 9 月上旬 3 名, 9 月 20 日に 1 名で終熄した。日々発生数の最高は 4 名で 8 月 9 日, 13 日, 15 日, 16 日, 21 日である。昨年も多発期は 8 月中旬である。(名古屋市立八幡中学校)

福島市信夫山に棲息せる蚊の幼虫相の観察について：馬場道夫 Baba, M.: Observations on the fauna of mosquito larvae on Mt. Shinobu, Fukushima City

ハエと蚊のいない国民運動第 3 年目に当り福島市役所衛生課員による花立の撤去が 1957 年 6 月末実施されることになつていたので、信夫山墓地附近に棲息して居つ